

Glossary

流暢さ (Fluency)

<http://www.teachingenglish.org.uk/article/fluency>

流暢さとは、学習者が、文法、発音、語彙の面でどれだけ間違いをするかではなく、どれだけ上手く意味を伝えられるかを指す。流暢さとよく比較されるのが正確さ(accuracy)である。正確さにおいては、間違いのタイプ、数、重大さに注目する。

例:

流暢に話せる(意味を明確に伝えられる)学習者であっても、正確ではないかもしれない(間違いが多い)。

授業で:

流暢さを伸ばすための活動は、コミュニケーションに重点を置いており、ディスカッション、スピーキングのアクティビティ、プレゼンテーション、プロジェクトなどのタスク活動、Eメールなどがある。

個人化・自己関連性 (Personalisation)

<http://www.teachingenglish.org.uk/knowledge-database/personalisation>

個人化あるいは自己関連性は、学習活動の中で、学習者が言語を使って、自らのアイデア、感情、好み、意見を表すときに起こる。個人化は、コミュニカティブ・アプローチにおいて、重要な役割を果たすが、それは学習者が自分自身個人の情報を伝えることで、本当のコミュニケーションが生じるからである。

例:

学習者はスポーツに関する文章を読む。その後ペアで、好きなスポーツは何か、またプレイするのと観るのとどちらが好きかを話し合う。

授業で:

個人化が重要であることにはいくつか理由がある。個人化は、言語を学習者に関連付け、コミュニケーション活動を有意義にし、記憶も促進する。個人化は、授業のあらゆる段階で起こすことが可能である。